

東海聖書神学塾 塾報

2024年12月

第79号

460-0022

名古屋市中区金山2-1-3

金山クリスチャンセンター3階

☎・FAX 052-321-7516

郵便振替 00860-7-65807 東海聖書神学塾

E-mail tokai.seisyo.singakujuku@gmail.com

http://tts.jpn.org

全国各地域に『聖徒聖書学校』を！！！！

現在すでに全国に300の無牧教会と、700の兼牧教会があり、牧師の数が急減している状況の中で、昨年、東海聖書神学塾は、「全国各地域に『信徒聖書学校』を設立して、教会と聖書学校が協力して、教会奉仕者を育成し、全国の教会の福音伝道と教会形成を継続的に推進していくプロジェクト」を立ち上げました。「第7回日本伝道会議」の後から、小さい者が「東海聖書神学塾・プロジェクト担当主任」として、「聖書学校」を設立する必要性を認識しておられる牧師先生がおられる地域に出向して説明と相談をさせて頂いて来ました。その結果、現在、高知県と滋賀県で、「信徒聖書学校一設立準備会」が発足し、定期的に協議会がもたれるようになりました。小さい者は各地域の牧師先生方と共に、教会の主イエス・キリストの導きと助けを心から感謝しております。なお、神学塾は、これらの地域の「聖書学校」の生徒の皆さんが神学塾の授業を聴講される場合、受講料の半額を免除する支援をさせて頂くことにしております。ぜひ、二つの地域で、聖書学校が来年4月に一神学塾のように小さく始めて大きく育てるヴィジョンをもって！一開講できるようにご支援ください。また、さらに多くの地域に「信徒聖書学校」が設立されるよう教会の主にお祈りください。

「全国『聖徒聖書学校』」のニュースを発行（無料・メール添付で発送）していますので、ご希望の方は、下記の小さい者のメールアドレスへ「ニュース希望」のメールをお送りください。ぜひ、所属教会名と氏名と住所をご記入ください。「全国『聖徒聖書学校』連盟」に関する資料を希望される方に郵送するためです。なお、「全国『聖徒聖書学校』設立プロジェクト」推進のための必要経費と小さい者の出向費等は、ご支援してくださっている諸教会と信徒の方々（現在20名程）の「全国『聖徒聖書学校』プロジェクト支援基金」への尊い献金で賄っております。この「全国の教会の福音伝道と教会形成の継続的推進のためのプロジェクト」を支援したいとお考えの方は、ぜひ、小さい者へ「支援します」のメールをお送りくださいますよう心からお願いいたします。栄光が教会の主イエスにありますように！！

†小さい者(後藤喜良)のメールアドレス=revpinguinkpg@yahoo.co.jp



東海聖書神学塾
運営委員
プロジェクト担当主任
後藤 喜良

公開講座 山口 陽一師 9月30日 栄聖書教会



「『日本的キリスト教』の時代と教会の責任」

午前の講演は、戦前戦中でキリスト教界に影響を与えた人物たちの言動や思想を概観しました。その特徴的なキリスト教徒の考えや行動は、①国家(国体)を第一に優先してキリスト教を従属させる、②国家神道を宗教と見ずに、キリスト教を共存させる、③キリスト教と国家神道を対立的にとらえる、というものです。

午後の講演では、共同研究「日本ではなぜ福音宣教が実をむすばなかったのか」(2012)を軸に、結論である、①キリストの心を具体化していない教会であったから(教会の問題)、②牧師・長老・役員が未熟だったから(牧師・指導者の問題)、③島国的劣等感の束縛から解放されていない(環境の問題)を学びました。特にキリンタンの「信仰告白と行い」に注目し、殉教の意義が持つ、世俗化に対抗する、宗教本来の力を見出しました。

(理事長 檀原久由)

女性公開講座 西岡 まりこ師 11月28日 インマヌエル名古屋教会



「違いを活かしあうためには」

「私たちはみな『違う』者として神に造られた」ということを前提に、まずは神が造られた2つの性別による「違い」と、それぞれの性格による「違い」について考え、また聖書から学びました。神は私たち人間を「ひとりであるのは良くない」と、互いがコミュニケーションを取ることを前提として、同じ者ではなく「違う」人間を創造されました。だからこそ、その違いを「話を通じない」と嘆いたり責めたりするのではなく、「どのように相手に伝えるべきか」「どのように相手の言葉を聞くべきか」ということを聖書のみことばに聞くことが、神にあって「違いを活かしあうこと」ではないか、ということを感じるひとときとなりました。講義中のディスカッションの場でも、受講者それぞれの経験や考え、学んだことを発言し合い、これからの信仰生活に活かしていくみことばを得たのではないかと思います。

(専門科 1年 加藤 愛)

夏のリトリート 下山 孝佳師 7月15日 金山クリスチャンセンター



「良い知らせを伝える者」

日本人クリスチャンは1%未満である中で、伝道とはまず日本人を理解する事、キリスト教は宗教ではなく生き方であり福音という新しい世界観を生きる事、今はまだ種蒔き以前の耕す段階である事など、たくさんの伝道に対する熱い思いをお語り下さりとても励まされました。私自身、過疎化した田舎に移住してから、田舎で伝道する事はとても勇気がいり、恐れが生じています。でも、リトリートに参加し励まされ、私も諦めず祈り続け、今置かれている場所で主のご栄光が現されますように祈りつつ歩んでいきたいと思いました。『恐れなくて語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町にはわたしの民がたくさんいるのだから。』使徒 18:9-10

(信徒奉仕者コース 平澤 千絵)

秋のリトリート 加藤 光行師 7月6~7日 グリーンピア春日井



「レビ記から読み解く現代と教会の課題」

レビ記10章の、「ナダブ」と「アビブ」事件(10:1~7)などから、聖なる神様が、私たちに求められる聖さは、とても厳しく、大変レベルの高いものであることを教えて頂きました。神様に受け入れて頂けるようなご奉仕はとてもできないと恐ろしくなります。しかし、私たちは、イエス様の十字架の尊い犠牲によって、すべての罪を赦されている。だから、私たちは、神様の前に罪を犯してしまう恐怖に縛られたり、聖なるものであらねばならないと強いられたり、そのような硬直した不自由な思いからささげるのではない。自らすすんで、喜んで、自由な心で、最上ものを祈り求め、ささげることが赦されている、ということをお教えました。また、そのような、自分の内側からご聖霊によって湧き上がる献身の思いがないと気づかされた時には、主の前に静まり祈り求める必要があることもお教えました。その他にも、加藤先生の深い学びと、豊かな牧会経験から、たくさんの恵みをお分かち頂くことができ、神様に感謝致します。

(専門科2年 野々垣 晶子)

教会実習

7月4～7日 春日井福音キリスト教会



教会の歴史、墓地見学、トラクト配布、中国人集会と路傍伝道、礼拝と愛餐会

中国人集会は、塾生のために日本語で行っていただきました。月1回場所を貸しているそうです。トニー牧師のメッセージ、食事。食べると

心が開くということで、実際に救われる方が毎年おられるそうです。路傍伝道は、証、賛美、チラシや聖書配付などで、塾生の持ち味が出ました。礼拝は、ブラジルの方も多くアメリカの方もおられ、インターナショナルな礼拝でした。

聖餐式もあったのですが、聖餐台はブラジルの教会のように華やかに飾り付けがされていました。祝祷は日本語とポルトガル語、ブレゼンは日本語、英語、ポルトガル語でした。多様なニーズに対応し、異文化を受け入れる、教会の在り方を学びました。

(信徒奉仕者コース1年 鴨下実枝)

各集会や日曜礼拝の中で3回もの別々の証をしました。救いの証、実習で体験した路傍伝道での証、今神様から与えられている希望について証させていただきました。共に学んでいる塾生の仲間達と寝食を共にして、一緒に楽しく過ごし、分かち合い、祈りあえた事も感謝でした。春日井福音キリスト教会の先生ご夫妻、兄弟姉妹との温かい交わり、心から賛美する礼拝から、とても励まされ、教えられました。このような機会を設けて下さった神学塾、受け入れて下さった春日井福音キリスト教会の皆様、共に過ごすことのできた4人の神学塾生の仲間に、そして全てを導いて下さっている神様に感謝します。

(信徒奉仕者コース1年 長江淳一)

教会実習

7月4～7日 朝日聖書教会



私たち5名(加藤姉、平澤姉、梶兄、山下兄、佐藤兄)は、トラクト配布(近隣住宅と最寄駅前前で計約4000枚)・フライデーナイト(青年たちと夕食交わり)で神学塾へ導かれた証・子供サマーフェス、CSの話と遊びブースで協力・特別伝道礼拝(7日)で特別讚美、救いの証、説教演習の奉仕を各自が役割分担して行なうことができました。普段は直接会う機会が少ない塾生(個性派揃い!)同士ですが、今回の実習では不思議とチームワークが発揮され、それぞれの賜物を用いて仕えることができました。また加藤先生は、学びレクチャー(証しと伝道について)、朝のディボーション(分かち合いと勧め)をして下さり、トラクト配布(36度を超える猛暑日)も一緒に回って下さいました。そして、礼拝後は朝日聖書教会の信徒の方たちと昼食交わりの時を持ってました。この実習を振り返り、またこの経験を通して、各自が主に仕える献身者として確信を強め、将来の宣教のビジョンを確認し、神様が私たちに神学塾で必要な学習に日々モチベーションを与えて下さるように祈ります。主が私たちの実習を全て守り、一人一人を導いて下さったことに感謝します。

(信徒奉仕者コース1年 佐藤雄一)

次世代育成者のための研修会

9月21日 多治見パロ文化ホール



「CS 教師研修会」から名称を新たに「次世代育成者のための研修会」が5年振りに開催されました。参加者は講師、スタッフ含め、約100名となりました。ご参加された方に感謝申し上げます。

「あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためです。」ヨハネの手紙第二 1:12 新改訳第三版

久しぶりに顔を合わせて研修会が開かれたことを私は「喜び」だと思います。「次世代育成者の研修会」は若い人を育成する為の研修会ではありません。今回は各教会の取り組みが発表され、次の年代にステップアップする為のテーマを分科会で行いました。多くの方々に参加して頂きたいと願っています。生まれたばかりの研修会です。今回のアンケートや感想を基にブラッシュアップして次回の研修会が実りあるものとなるように、お祈りして下さい。

(信徒奉仕者コース4年 山下 義幸)

行事報告

- 7月15日下山孝佳教務主任を講師に迎えて、塾生とOB会のための一日リトリートがありました。
- 7月16日より夏季休暇開始、9月2日より授業再開。
- 9月21日バロー文化ホール会議室（多治見市）において、「次世代育成者のための研修会」がありました。
- 9月23日教師研修会があり、後藤喜良師から「信徒聖書学校－設立準備会」の報告がありました。
- 10月2日より後期授業開始、10月6-7日にかけて塾生のためのリトリートが、グリーンピア春日井でありました。講師は加藤光行師でした。
- 10月28日インマヌエル名古屋教会で、西岡まり子師を迎えて女性公開講座がありました
- 12月6日クリスマス礼拝があり、山内とく子師を説教者にお迎えしました。二次会は加藤姉の賛美と演奏によるクリスマスコンサートがありました。
(塾生主任 檀原久由)

教務報告

- 「収穫は多いが働き手は少ない。だから収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださる様に祈りなさい」マタイの福音書9章38節
- 2025年1月6日（月）オープンセミナーと入塾説明会を行います。神学塾に入塾を検討しておられる方は入塾説明会にお越しください。入塾説明会は午後3時からと午後6時から行います。また、オープンセミナーは午後1時半から行います。自分で聖書を読めるようになるための学びとして「聖書の読み方1」を、その後説明会1を挟んで、午後4時半から「聖書の読み方2」を行い、そのあと説明会2を行います。オープン講義は各1時間の予定です。次年度入塾を希望される方は、また聴講したい方は、お気軽にお越しください。説明会は1のみの参加でも構いませんし、セミナーに参加できなくても説明会だけの参加も可能です。
- 来年度の入塾願書締め切りは2月14日（金）までです。また、入塾試験は2月28日（金）午後1時です。願書をご希望の方は神学塾にお問い合わせください。また、ホームページからもダウンロードすることができます。
- 東海聖書神学塾では「女性奉仕者コース」の受講生も募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。
- 東海聖書神学塾は随時、見学者を受け入れています。入塾前に授業光景を見てみたいという方は、神学塾にお問い合わせください。
(教務主任(教師担当) 鴨下直樹)

2025年度 塾生募集

- 東海聖書神学塾のコースは以下の5つです。
 - 教職志願者コース「牧師、宣教師等に召された人のため/週2、3日の学びで5年程」
 - 信徒奉仕者コース「信徒牧会者・信徒伝道者・教会役員等のため」
 - *週2日、昼または夜だけの学びの場合は4年程、昼夜の学びの場合は3年程で修了
 - 女性奉仕者コース「教会の女性奉仕者のため/毎週の金曜日の学びで2年」
 - 牧師夫人講座「牧師や宣教師夫人だけのため/隔週の金曜日の学びで2年」
 - アドヴァンスコース「牧師や神学塾の卒業生のため/毎月一度月曜日の学びで1年単位」
 - *入塾願書をご希望の方は、どうぞ郵便で当塾へご請求ください。[返信用の110円切手同封]ホームページからダウンロードしていただくこともできます。
- 当塾は教会から推薦された献身者のみを受け入れる方針を堅持しておりますので、入塾希望者は必ず所属教会の牧師の指導を受けると共に、教会役員会で召命と献身を確認して頂き、教会全体の支援を受けて入塾できるように準備してください。
- 2025年度の入塾説明会は 2025年 1月 6日（月）3時～ と6時～
 - 同 入塾願書の締め切りは 2025年 2月14日（金）必着
 - 同 入塾試験（筆記・面談）は 2025年 2月28日（金）1時～（全員）